

タキロンシーアイ グループ

# CSR

## 報告書 2017

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY



タキロンシーアイ

# タキロンシーアイの使命

今日を支える、明日を変える。



「プラスチックテクノロジーで

人と地球にやさしい未来を創造する。」

これが私たちタキロンシーアイグループの使命です。

## 経営理念

01 私達はずねに地球環境保護をこころがけ、企業の永続的な発展成長をめざします。

02 私達はお客様に満足して頂ける品質と価格を提供し、社会に貢献します。

03 私達は社会の変化を先取りし、未知への挑戦に情熱をもやします。

04 私達は人を大切にし、個性と創意を尊重します。

05 私達は正当な利潤を追求し、公正な配分につとめます。

## CONTENTS

トップメッセージ	4
会社概要/財務ハイライト/事業概要	6
事業拠点	8
製品と社会とのかかわり	10
製品と生活環境とのかかわり	12

### 特集

人と地球と未来にやさしいものづくり	14
-------------------	----

### マネジメント体制

健全で透明性の高い経営のために	22
-----------------	----

### 社会性報告

株主・投資家の皆様とともに	24
お客様とともに	24
お取引様とともに	25
従業員とともに	26
安全衛生の取り組み	28
地域・社会とともに	30

### 環境報告

環境方針・環境マネジメント体制	32
環境保全活動内容と実績	33
環境指標	
省エネ・省資源の取り組み	34
ゼロエミッションの取り組み	35
化学物質の管理と低減の取り組み	36
水資源の有効利用の取り組み	37
貨物輸送量の推移	37
環境会計	38

### ●編集方針

本報告書はタキロンシーアイグループが進めるCSRの基本的考え方と具体的な取り組みを報告し、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的として発行しております。

#### ●報告期間

2016年度(2016年4月1日~2017年3月31日)

\*一部対象期間外の情報も含まれます。

#### ●報告組織

タキロンシーアイ株式会社およびグループ会社

#### ●発行日

2017年9月30日

### 【コミュニケーションツールのご紹介】

当社のCSRに対する考え方や取り組みを以下のツールでご紹介しています。また、本報告書のPDF版とバックナンバーはホームページよりダウンロードできます。



「CSR報告書」



「ホームページ」

会社概要

特集

マネジメント体制

社会性報告

環境報告



## TOP MESSAGE

代表取締役社長

南谷陽介

## 社会の持続的な発展への貢献

### 「プラスチック加工業界におけるリーディング・カンパニー」を目指します。

2017年4月1日、タキロン株式会社とシーアイ化成株式会社が経営統合し、タキロンシーアイ株式会社が始動しました。

タキロン株式会社とシーアイ化成株式会社は、いずれもプラスチック加工総合メーカーとして長い社歴を有し、それぞれ独自の技術革新をもとに、お客様のニーズに応えるべく数々の高品質・高付加価値の製品を世に送り出し、事業拡大に取り組んでまいりました。

一方、事業を取り巻く環境は、戸建住宅の新設着工戸数の伸び悩みや公共投資削減による市場の縮小、個人消費をはじめとした国内需要の低迷、競合他社の参入に伴う国際的な価格競争の激化など先行きの懸念材料も多い状況にあります。

この状況の中、タキロンシーアイは、経営統合により両社グループの総合力を結集して、プラスチック加工総合メーカーとしての企業規模および事業ドメインを拡大し、事業ポートフォリオの再編ならびに経営および保有資産の効率化などによるシナジー効果の発揮を通じて、「プラスチック加工業界におけるリーディング・カンパニー」を目指してまいります。

### タキロンシーアイグループの使命 「プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する。」

タキロンシーアイグループは、プラスチックテクノロジーの可能性を信じ、プラスチックテクノロジーによる人々の豊かな暮らしの実現、地球環境への負荷の低減、さまざまな社会的課題の解決に取り組んでいます。この継続的な取り組みが、社会の持続的な発展に貢献し、健やかな未来の創造につながるものと考えています。これがタキロンシーアイグループの果たすべき使命です。

そして、この使命を確実に実践するために、タキロンシーアイグループが一体となって、高い目標をもってチャレンジし、真摯に結果を求め、ステークホルダーや社会にコミットする企業文化をつくってまいります。

また、プラスチック加工総合メーカーとして環境への取り組みは不可欠であることから、統合後、速やかにタキロンシーアイグループにおける環境に関する方針を策定しました。統合前の二社の取り組みを継続し、さらに融合・進化させるべく、基礎となるマネジメントの仕組みを構築した上で、環境理念に基づく5つの環境基本方針に沿って、一つ一つの対処を確実に取り組んでまいります。

タキロンシーアイグループは、社会の一員として企業の社会的責任を果たし、社会から求められ、信頼される存在になっていくために、環境への取り組み以外にも、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスの充実をもとより、製品の品質・安全の確保、人権の尊重・人材の活用、サプライチェーンへの取り組み、地域活動への取り組み、国内外での社会貢献活動などのCSR活動をさらに強化してまいります。

# Company Profile

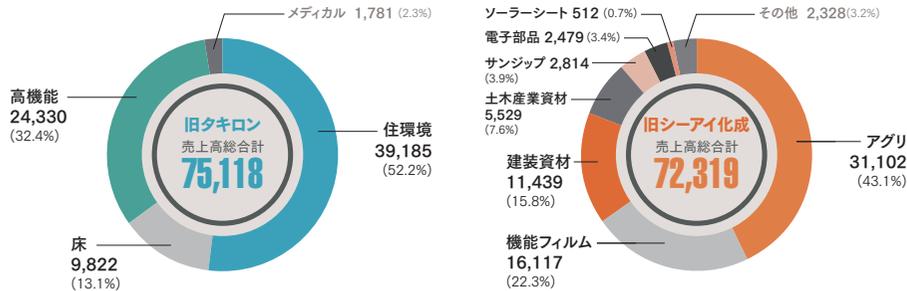
## 会社概要

商号	タキロンシーアイ株式会社 (C.I. TAKIRON Corporation)	代表者	代表取締役社長 南谷陽介
本社	大阪市北区梅田三丁目1番3号 ノースゲートビルディング	決算期	3月31日
創業	大正8年10月10日 (1919年)	資本	15,189百万円 (2017年3月31日現在)
設立	昭和10年12月20日 (1935年)	株式上市	東京証券取引所株式会社市場 第一部
		従業員	3,503名 (2017年6月末現在 連結) 1,227名 (2017年6月末現在 単体)

## 財務ハイライト

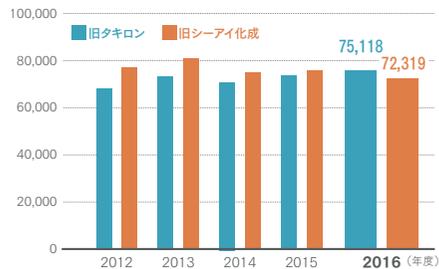
### ◆2016年度 セグメント別売上高

(単位:百万)



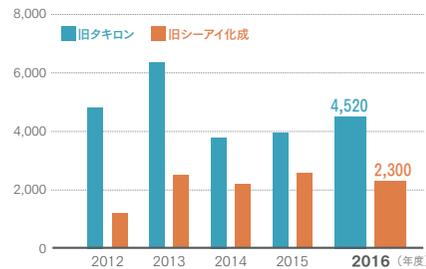
### ◆売上高推移

(単位:百万)



### ◆経常利益推移

(単位:百万)



## 事業概要

### ◎建築資材事業

雨水循環システム製品群を中心とするおおいのある快適な住宅づくり、街づくりを支える住設資材製品、耐衝撃性・軽量性・採光性・耐候性など優れた特性を持つポリカーボネート製採光建材製品、快適な生活を足元から支える床材製品・建築内外装に使用する高い質感の化粧フィルム製品、防災・減災に貢献する防災事業製品を取り扱う事業部門です。



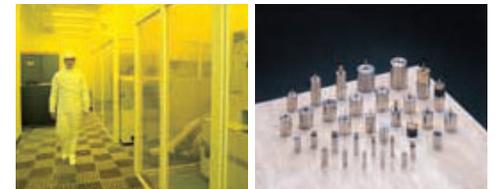
### ◎環境資材事業

国内トップクラスのシェアを誇る高品質・高機能の農業用ビニルフィルムやポリオレフィンフィルム・灌水チューブなどのアグリ製品、トンネル・ダム・廃棄物処分場などの社会インフラの機能や安全性を支える遮水・止水材料などのインフラマテリアル関連製品を取り扱う事業部門です。



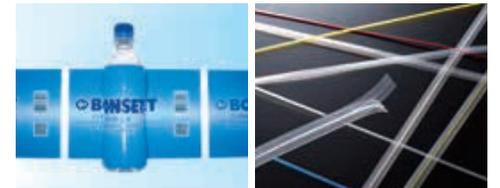
### ◎高機能材事業

耐薬品性・耐熱性を持つ汎用塩基板、制電・難燃・波長制御等の機能を持つ高機能塩基板など半導体・液晶関連他、幅広い産業分野で使用される高機能材料、デジタル一眼レフカメラを中心に医療および測定用ポンプ・電子銃などに使用される小型精密モータ、内装・検査機・環境分野で使用される磁石対応型ホワイトボードシート・タンクステンシート・磁性制振材などの磁性材料を取り扱う事業部門です。



### ◎機能フィルム事業

加熱・収縮機能を持ち、PETボトル飲料、食品・芳香剤容器の収縮ラベルなどに使われる熱収縮フィルム製品、食品・薬品などの包装材料に用いられるプラスチックジッパーテープおよびジッパー付ポリエチレン袋などのジッパー製品を取り扱う事業部門です。



会社概要

特集

マネジメント体制

社会性報告

環境報告

# 事業拠点

国内49カ所、海外8カ所の拠点で事業を展開しています。

## 本社

- ① 本社 梅田オフィス
- ② 東京本社 品川オフィス
- ③ 東京本社 京橋オフィス



① 本社 梅田オフィス    ② 東京本社 品川オフィス    ③ 東京本社 京橋オフィス

## 支社・営業所

- ④ 札幌営業所 札幌オフィス
- ⑤ 札幌営業所 大通オフィス
- ⑥ 東北支店 一番町オフィス
- ⑦ 東北支店 広瀬通オフィス
- ⑧ 東京支店 品川オフィス
- ⑨ 中部支店 新栄オフィス
- ⑩ 大阪支店 梅田オフィス
- ⑪ 大阪支店 肥後橋オフィス
- ⑫ 中四国支店 広島オフィス
- ⑬ 中四国支店 高知オフィス
- ⑭ 九州支店 博多駅前オフィス
- ⑮ 九州支店 中洲オフィス



⑬ 中四国支店 高知オフィス    ⑭ 九州支店 博多駅前オフィス

## 製造拠点・研究所

- ⑯ 網干工場
- ⑰ 損保川事業所
- ⑱ 安富工場
- ⑲ 東京工場
- ⑳ 滋賀工場
- ㉑ 栃木工場
- ㉒ 岡山工場
- ㉓ 平塚工場
- ㉔ 佐野工場
- ㉕ 九州工場
- ㉖ 滋賀研究所
- ㉗ 神戸研究所



⑯ 網干工場    ⑰ 損保川事業所



⑱ 安富工場    ⑲ 東京工場



㉑ 滋賀工場    ㉒ 栃木工場



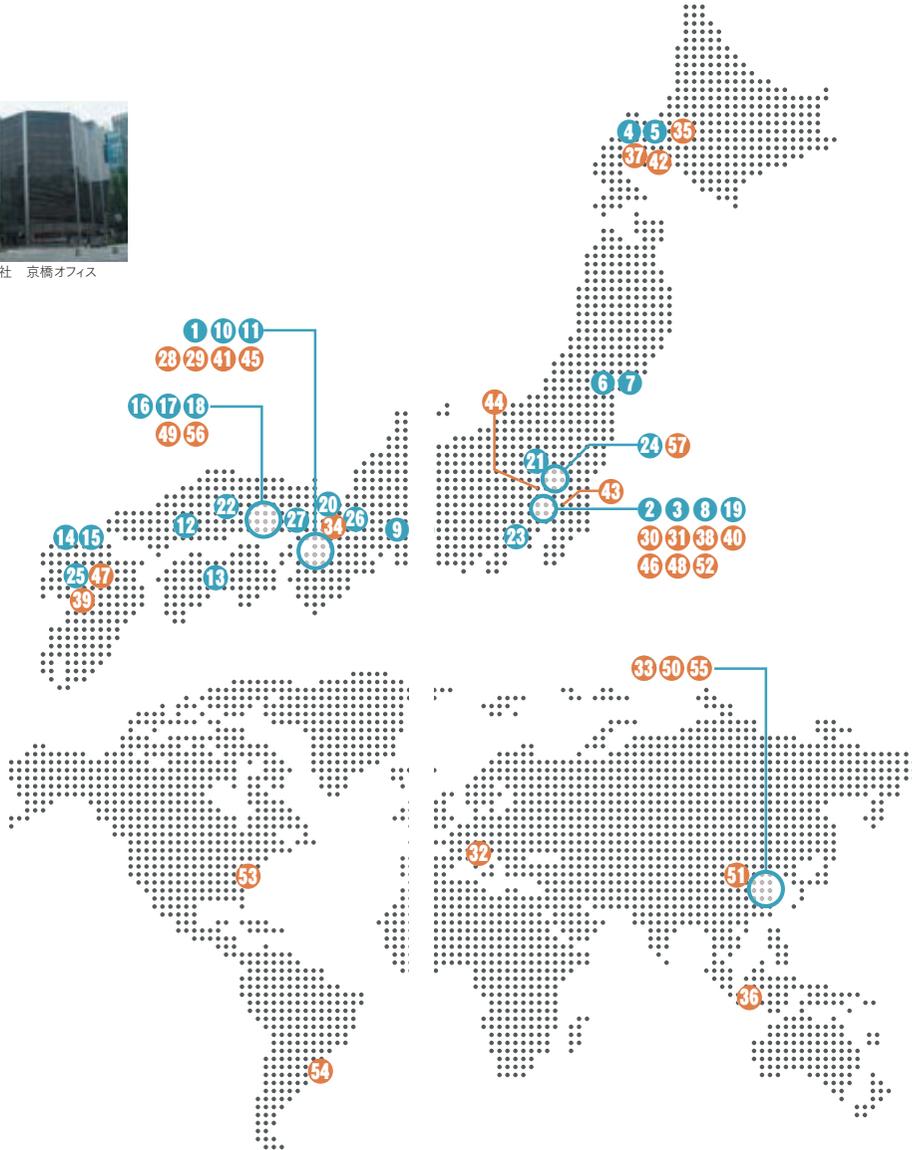
㉓ 岡山工場    ㉔ 平塚工場



㉕ 佐野工場    ㉖ 九州工場



㉗ 神戸研究所    ㉖ 滋賀研究所



## グループ会社

### ◎建築資材事業

- ① 三和サインワークス株式会社
- ② 日本ポリエステル株式会社
- ③ タキロン KC
- ホームインプループメント株式会社
- ④ タキロンマテックス株式会社
- ⑤ Bonlex Europe S.r.l.
- ⑥ 上海世変化成貿易有限公司



⑤ Bonlex Europe S.r.l.



③ PT. TAKIRON INDONESIA

### ◎環境資材事業

- ⑦ タキロンプロテック株式会社
- ⑧ 北海道サンプラス株式会社
- ⑨ PT. TAKIRON INDONESIA
- ⑩ 株式会社ヨコビ
- ⑪ シーアイマテックス株式会社
- ⑫ シーアイアグロ株式会社
- ⑬ ダイライト株式会社
- ⑭ 大日本プラスチック株式会社
- ⑮ 北海ダイプラ株式会社
- ⑯ ダイプラテック株式会社
- ⑰ ダイプラ・ウィンテス株式会社
- ⑱ タキロンエンジニアリング株式会社
- ⑲ ワセダ技研株式会社



③ PT. TAKIRON INDONESIA



⑩ 上海希変化成電子有限公司 (上海シーアイ化電子)

### ◎高機能材事業

- ① タキロンポリマー株式会社
- ② CIK ナノテック株式会社
- ③ タキロン・ローランド株式会社
- ④ 上海希変化成電子有限公司 (上海シーアイ化電子)
- ⑤ 他喜龍塑料(常州)有限公司 (タキロン常州)



⑤ Bonset America Corporation

### ◎機能フィルム事業

- ⑥ 株式会社ボンパック
- ⑦ Bonset America Corporation
- ⑧ Bonset Latin America S.A.
- ⑨ 上海桑普拉斯塑料有限公司 (上海サンプラス)



⑦ Bonset Latin America S.A.

### ◎製造会社

- ④ タキロンテック株式会社

### ◎物流会社

- ⑧ シーアイケー物流株式会社



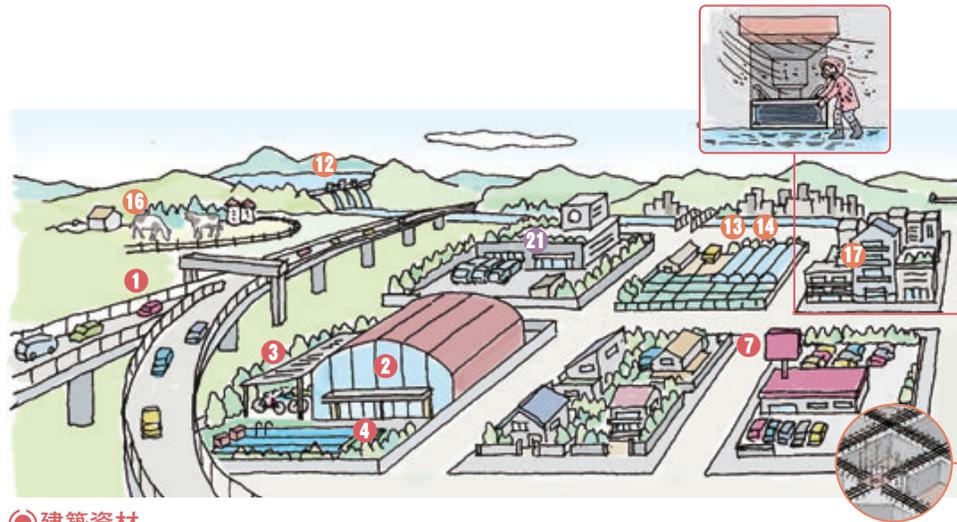
⑨ 上海桑普拉斯塑料有限公司 (上海サンプラス)

# タキロンシーアイグループ製品と社会とのかかわり

## 公共インフラ

軽量性・加工性など樹脂が持つさまざまな優位性・特性を活かし、タキロンシーアイグループは創造性に富んだ多彩な製品を生み出してきました。

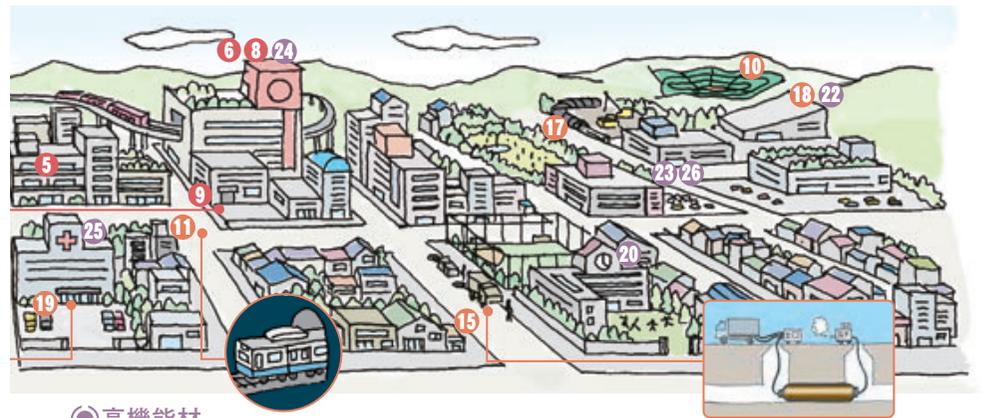
これらの製品は農業・土木・建築分野から国内外の社会インフラや最先端の電子産業分野に至るまで幅広い分野で使用され豊かな生活環境づくりと社会の発展に貢献しています。



## 建築資材



## 環境資材



## 高機能材



# タキロンシーアイグループ製品と生活環境とのかかわり

## 生活環境～住宅周り

私たちの住まいはさまざまな建築材料から構成されていますが、タキロンシーアイでは多種多様な住設建材製品や採光材製品をラインアップ。雨水の循環活用システムなどの製品群をはじめとして、環境にも配慮しつつ住まいの内外で快適な暮らしを支えています。

### ◎建築資材



雨樋（ジェットライン） デッキ材 濡れ線 汚水マス 雨水浸透マス

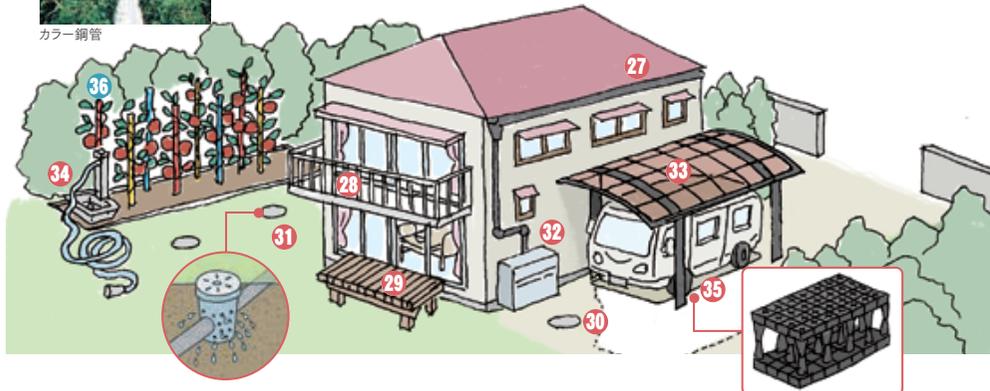


雨水貯留タンク カーポート(ポリカーボネートプレート) 水栓柱 小規模雨水貯留・浸透槽用貯留材

### ◎環境資材



カラー網管



## 生活環境～身の回り

日々、私たちが手にする食品・飲料水・化粧品などの日用品の容器・包装袋にもタキロンシーアイの製品が使われています。また、私たちの快適な生活に欠かせないスマートフォン・デジタル一眼レフカメラなどの各種デジタル機器にも、タキロンシーアイの製品は活躍しています。

### ◎建築資材



内装化粧材(真空成型用) 床下収納庫

### ◎高機能材

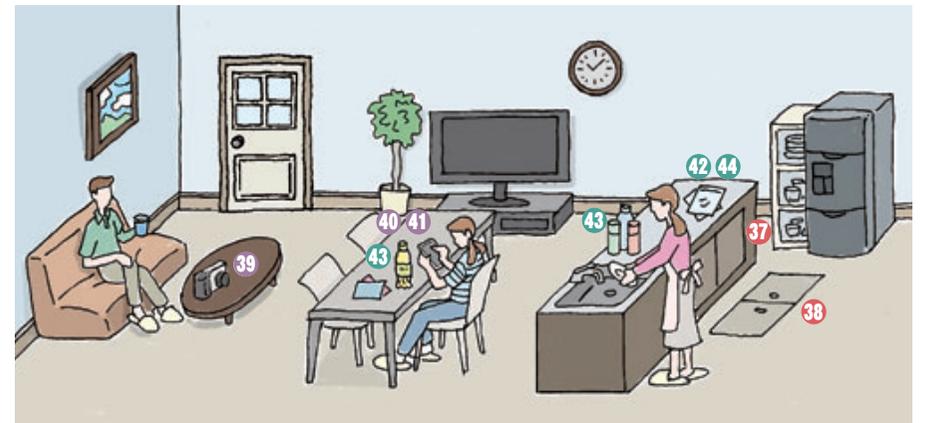


マイクロモーター 面板(ポリカーボネートプレート) 超微粒子マテリアル

### ◎機能フィルム



ジッパー付プラスチック袋 ボトル用シュリンクフィルム ジッパーテープ



人と地球と未来にやさしいものづくり  
**特集 防災・減災を支える①**

近年、日本では地震・火山災害のような大規模災害だけでなく、雨風や雪・雷などによる気象災害も増加し、防災・減災対策が急務となっています。

タキロンシーアイでは長年培ったプラスチック加工技術を活かし、防災・減災対策に貢献できる暗闇対策製品と水災対策製品を開発。災害が想定される全国のあらゆる場所で貢献しています。

**水災対策製品「フラッドセーフシリーズ」** タキロンシーアイ様

気候変動やヒートアイランド現象に起因する都市部を中心とした局所的かつ短時間に発生する強烈な降雨（ゲリラ豪雨）は、内水氾濫や外水氾濫などの浸水被害をもたらすため、近年は浸水防止を目的とする止水製品が注目されています。一方、止水製品としては古くから土のうや水のう、角落しなど

がありますが、重い上に止水性能が不十分などの欠点があります。

そこで、面材部分に樹脂パネルを採用した軽量パネル止水板「フラッドセーフシリーズ」を開発。女性やお年寄りでも持ち運び可能で、簡単な操作での高い止水性能を実現しました。

**フラッドセーフライト**

簡単な操作で設置ができ、優れた止水性を発揮します。また、基本的に工事は不要※1で、急なゲリラ豪雨にも素早く対応できます。建物の意匠を損ねませんので、銀行、店舗、マンション、オフィスなどの水災対策に広くご採用いただいております。

※1）設置場所により軽微な工事が必要な場合があります。

水深 **50cm** まで対応



**フラッドセーフパネル**

簡単な操作で設置ができ、優れた止水性を発揮します。設置用柱の工事を伴いますが、中間柱により広い開口にも対応できます。地下駐車場・地下鉄、変電設備やポンプ場など、公共施設の水災対策に広くご採用いただいております。

水深 **100cm** まで対応




**暗闇対策製品「ルミセーフシリーズ」** タキロンシーアイ様

地震などの大規模災害が夜間に発生した場合、電力施設・設備の被災により停電となるケースが考えられます。災害発生時には、避難所など安全な場所への避難が最優先ですが、夜間の停電時には階段や通路でのけが、さらには避難する場所や方向さえ判別できなくなる恐れがあります。

そこで、蓄光技術を活かし、日没から日の出までを想定した12時間後も暗闇で視認可能な暗闇対策製品「ルミセーフシリーズ」を開発。夜間停電時の避難誘導製品として、屋内外のさまざまな場面での暗闇対策に効果を発揮します。

**ルミセーフサイン**

JIS9097（津波避難誘導標識システム）およびJIS9098（災害種別避難誘導標識システム）にて明記される、「屋外における蓄光材料のりん光輝度区分」に対応する蓄光製品です。オリジナルの柔軟な蓄光シートをベースにさまざまな仕様に対応しています。各地の避難所・避難場所への誘導標識として、広くご採用いただいております。



**ルミセーフステップ**

停電時の津波発生などにより垂直避難誘導が必要な場合、導線の遠方からの階段認識に効果を発揮します。避難所・津波避難タワー、「津波避難所」の指定を受けたマンション・ビルなどの施設および工場、病院など、災害発生非常時の使用が想定される階段だけではなく、通常時でも安全歩行への関心が高い施設の階段にもご採用いただいております。



**ルミセーフシート・ルミセーフライン**

階段段鼻、床面などに施工することで暗闇時でも階段・通路の輪郭を明確にします。粘着テープ仕様で簡単に施工ができ、夜間の停電時でも安全な避難が確保できます。



**ルミセーフフレックス**

柔軟でカットなどの加工が容易なシート材です。手すりや壁コーナーなどに切って貼るだけの簡単設置が可能ですので、暗闇対策にさまざまなシーンで活躍します。



**「止水板」開発者の声**

**全ての人が使いやすい製品を目指して**

東日本大震災で被災した地域に勤務していたこともあり、減災に対してより貢献できる商品開発を目指し、人の生活や資産を守ることでできる止水板を誰でも取り付けできる商品として提供したいとの思いから、軽量で丈夫なプラスチックの特性を活かした新しい止水板を開発しました。今後はよりお客様の声に耳を傾けて、製品の改良やさらなる新製品の開発に努めていきたいと思っております。

安富工場床技術グループ 止水板担当 **有村友孝**




会社概要  
 特集  
 マネジメント体制  
 社会性報告  
 環境報告

日本は豊かな「水」に恵まれた国土を有する国ですが、一方で大型台風や集中豪雨などによる「水」に関わる災害も多く発生しています。また、地震多発国でもあるわが国では、副次的に発生するさまざまな「水」に関わる事故が私たちの生活を脅かすことがあります。このような災害・事故対策に「ビノン遮水シート」は縁の下の力持ちとして、さまざまな場所で防災・減災を支えています。

## 防災・減災に応用される「ビノン遮水シート」

タキロンシーアイ株式会社

タキロンシーアイが取り扱うインフラマテリアル関連製品である「ビノン遮水シート」は、ポリエチレンや塩ビを主原料としており、熱による融着が容易でつなぎ合わせることでより大きなサイズにも加工できるため、広い面積で遮水性を求められる用途で活躍しています。

廃棄物や汚染水が外部へ漏れ出すことがあってはいけない産業廃棄物処分場や海からの浸水を防ぐ防潮堤への適用など、環境保護や防災・減災などを目的とする用途に幅広く応用されています。



産業廃棄物処分場



防潮堤

広い面積でも加工が可能

## 土壌汚染を防ぐ

2011年に発生した東日本大震災により被災した福島第一原子力発電所から飛散した放射性物質は、周辺地域の土壌や瓦礫、落ち葉などを汚染しましたが、その除染作業により特定廃棄物が大量に発生しました。これらの特定廃棄物は一旦、除染仮置場で保管されていますが、将来的には中間貯

蔵施設での保管が予定されており、今後、数年をかけて中間貯蔵施設の新設が行われる計画です。その施設では、汚染水の漏出を防ぐという重要な機能が求められており、遮水性に優れた「ビノン土木用遮水シート」が採用されています。

環境面だけでなく安全面も



除染仮置場

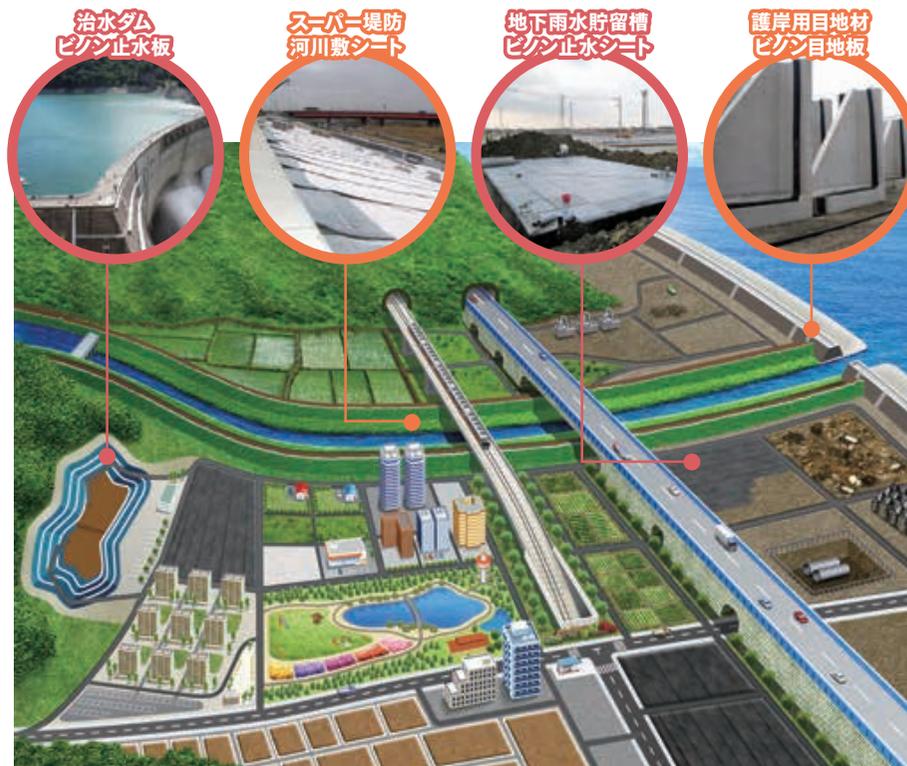


中間貯蔵施設（イメージ）

## 「水」の脅威から生活を守る

近年の気候温暖化に起因するとされる大型台風や突発的な集中豪雨などによりもたらされる多量の雨水により、浸水や洪水などの水害が発生するケースが増加しています。そのため、地方公共団体施設や大型店舗などの建設工事に併せて設置される地下の大型雨水貯留設備、また雨水の流入による急激な増水による堤防の決壊や河川の氾濫を防ぐための堤防改修工事や補強工事など、広い面積で遮水機能が求

められる用途にも「ビノン遮水シート」は採用されています。長年の経験を生かした技術的見地からの提案、国内2工場（九州・栃木）での製造および加工、グループ企業であるシーアイマテックス㈱による施工管理など、一貫した対応が可能です。また、特殊な機能を付与した複層シートの開発や現場施工の手間を省くためのシートの広幅化などお客様からのご要望にお応えできる製品の開発・提供にも努めています。



治水ダム  
ビノン止水板

スーパー堤防  
河川敷シート

地下雨水貯留槽  
ビノン止水シート

護岸用目地材  
ビノン目地板

特集 人と地球と未来にやさしいものづくり  
**社会インフラを支える①**

鉄道や道路、上下水道などの社会インフラは、私たちの日常生活にとって必要不可欠なものです。しかし、これらの設備・施設の多くは昭和期につくられ、長期間にわたり使用されてきたものが多く、緊急的な整備によるものや立地環境の厳しい場所での使用なども加わり老朽化が進行しています。事故が発生した場合、私たちの生活が脅かされる懸念もあり、近年、施設・設備の維持・管理が強く求められています。

そのような環境下、タキロンシーアイグループは老朽化が進む社会インフラの更生、再生に寄与しています。

**下水道管きよ更生工法 (FFT-S 工法)**

タキロンエンジニアリング㈱

都市機能を維持する上で重要なライフラインの一つに下水道があり、普及率は77%を超えています。一方、政令指定都市で高度経済成長期以降に大量に整備された下水道管は耐用年数を迎え老朽化が進行しています。近年、下水道管の老朽化などに起因した道路陥没が大小を含め毎年4千件以上発生し、市民生活を脅かす重要な課題となっています。

この課題の解決には、老朽化した下水道管を掘削して新たな管を埋め戻す方法と、下水道管は掘削せずに管内に新たな管を構築する方法があります。前者は、広い工事スペースを必要とし、老朽化した管を掘り起こす必要があり、工期が長く交通事情が厳しい都市部では大きな障害となります。

一方、後者は、既存のライフラインをそのままに最小限の占有スペースで工事が可

能で、一日で工事が完了できるなど、多くのメリットがあります。

当社は、道路を掘削することなく、下水道管を強靱なFRP<sup>®</sup>管にリニューアルする「FFT-S工法」を開発し、全国で課題解決に貢献しています。

※1 FRP：ガラス繊維などの繊維をプラスチックの中に入れて強度を向上させた複合材料、軽量で強度が強いのが特徴



下水道管リニューアル前



下水道管リニューアル後

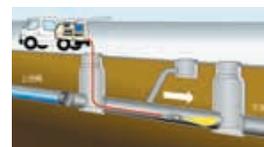
**更生工法施工実績**



**「FFT-S 工法」の概要**

① 事前調査

事前調査では下水道管の内径を測定し、自走式のカメラを使って老朽化した下水道管内の状態を調査します。この調査を基に材料を作製します。



② 材料の引込み

円筒形に加工した特殊ガラスに熱硬化性樹脂を含浸させた材料を下水道管に引き込みます



③ 材料の加熱硬化

材料を空気圧で拡張させ、下水道管に密着させた状態を保ちます。その後、蒸気の熱で熱硬化性樹脂を硬化させてFRP管を形成します。



④ 完成

硬化は最大で3時間で完了します。硬化後、リニューアルされた管によって塞がれた取付管の穿孔を行い、家庭から排出される汚水の供用を開始します。下水道管延長は100mまで施工が可能です。



**「FFT-S 工法」のメリット**

- 01 工事による騒音、振動、交通渋滞などを最小限にでき、周辺住民への負担を少なくすることができます。
- 02 道路の掘削規制や埋設されている水道管やガス管などの制約を受けることなく工事を円滑に進めることができます。
- 03 道路掘削時に発生するアスファルトや既設管などの産業廃棄物の発生を抑え、地球環境に配慮した工事ができます。
- 04 既設管と同等以上の強度と既設管にない耐震性を有し、都市環境の安全性を確保します。東日本大震災でも「FFT-S工法」のリニューアル管は、被害は見られないことを追跡調査で確認しています。

**担当者の声**



技術部 次販技術グループ  
**平田 恭章**

**生活を支える仕事にやりがいを感じます。**

下水道管の更生は人々が生活していく上で、必要な社会基盤を支えている仕事だと思います。そのためやりがいも大きく、自分の携わった仕事が生活に密着した形として見えるため、日々大きな達成感を感じています。

今後、老朽管がさらに増え続けるという課題を克服するためにもより良い製品開発に取り組み、さらなる質の向上に努めていきたいと考えています。

◎ 特集

## 人と地球と未来にやさしいものづくり 社会インフラを支える②

近年、都市における鉄道や道路は高架化・地下化が進み、特にトンネルは深度・距離とも深く長くなる傾向にあります。一方、トンネル工事での地下湧水は大きな問題であり、施工完了後もメンテナンスの点からトンネル内の止水対策は強く求められています。このようなトンネル内の止水にもタキロンシーアイのインフラマテリアル関連製品「ピノンハイドロタイト」が使われています。

### 交通インフラ整備に使用される「ピノンハイドロタイト」

タキロンシーアイ㈱

「ピノンハイドロタイト」は吸水性樹脂と合成ゴムを特殊製法で加熱成形させた水膨張性止水材です。

加硫ゴムと同様のパッキング効果に適した反発弾性・復元性に加えて、優れた水膨張特性を有し、セグメント止水材として幅広く利用されています。



### 渋滞緩和の一翼を担う

首都圏では、長年の懸案であった東京外かく環状道路の全線開通（関越～東名）に向けて整備工事が急ピッチで進められています。

これは、関越自動車道路の大泉ジャンクションと東名高速道路の東名ジャンクション（仮称）までの約16kmを全線地下トンネルでつなぎますが、本線シールドトンネルの外径は15.8mと大きく、また最大深度は地下40mと深い位置を通ります。

この整備工事により首都高速道路および一般幹線道路での渋滞解消のみならず、間接的ながら自動車から排出される二酸化炭素の排出量の削減が期待できます。この大深度・大口径のトンネル工事にも水膨張性止水材ハイドロタイトが採用されています。



シールドトンネル使用例



カルバートボックス使用例



### 国内だけでなく海外でも

“水を持って水を制する”のコンセプトを持って開発されてから30年以上にわたり、トップブランドとして認知され東京湾横断道路やシンガポール・香港の地下鉄工事など国内外の数多くのトンネル物件に採用されました。最近では国内の大型

物件はもとより、インドネシア初の地下鉄工事や現在進行中のベトナム初のホーチミン地下鉄工事でも採用され、交通渋滞の解消に向けた交通インフラの整備に貢献しています。

30カ国、  
100以上の  
施設で使用  
(2017年3月現在)



### 交通・都市インフラ整備工事に 欠かせない存在

山岳トンネル用途では「ピノントンネル防水シート」、地下駐車場、地下鉄駅舎部などのコンクリート打継部には「ピノンハイドロタイト シー ジェイタイプ」が採用されるなど交通・都市インフラ整備工事の幅広い分野で活躍しています。

長年の経験により技術的な提案から製造、加工、販売までの一貫した対応が可能です。

さまざまな  
条件に対応



山岳トンネル向け NATM シート使用例



コンクリート打継使用例

会社概要

特集

マネジメント体制

社会性報告

環境報告

## マネジメント体制

# 健全で透明性の高い経営のために

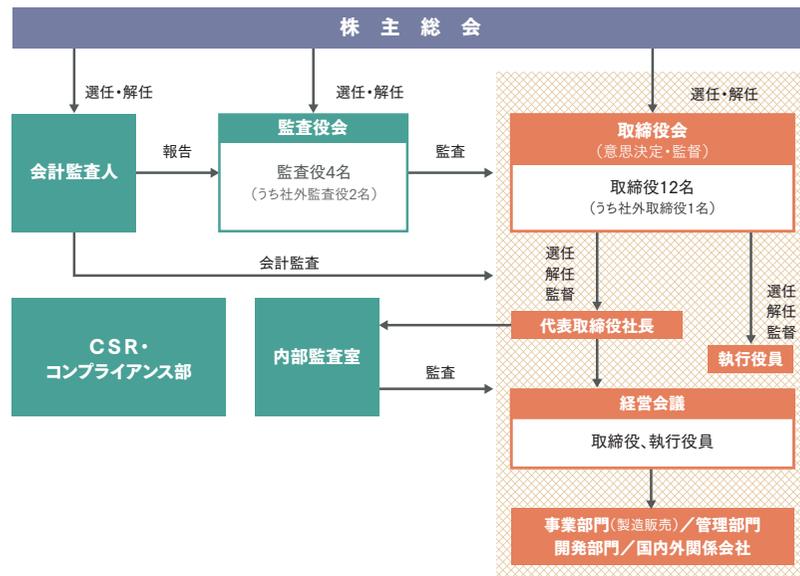
タキロンシーアイグループでは、企業統治の強化・充実と社会規範や法令の遵守に努め、安心・安全な商品・サービスの提供、人権の尊重、公正な事業活動の推進、コーポレート・ガバナンスの向上、環境への取り組み、サプライチェーンへの取り組み、地域活動への取り組みなどのCSR活動を通じて、社会の皆様から信頼される事業活動を行うことで企業価値を高めてまいります。

## コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの信頼を得て、企業価値を向上していくためには、経営の効率性、透明性を高めていくことが欠かせないと考えています。そのため、右記の2点を基本にガバナンス体制を強化し組織統治の充実に努めています。

1. 取締役会は社外取締役1名を含む取締役12名で構成し、経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務遂行を監督する。
2. 取締役は取締役会が決定した役割に基づき、業務執行に関する意思決定に参加する。また、社外監査役2名を含む監査役4名が取締役の職務遂行の適正性を監査する。

### ◆コーポレート・ガバナンス体制



## コンプライアンス

### コンプライアンス体制

企業は法令を遵守することはもとより、社会規範や社会通念に即した高い倫理観を持って行動することが求められています。この認識のもと、従業員一人ひとりが業務を遂行するにあたり法令や社会規範、経営理念に基づき正しく行動できるよう、「タキロンシーアイグループ企業行動基準」を新たに策定しました。

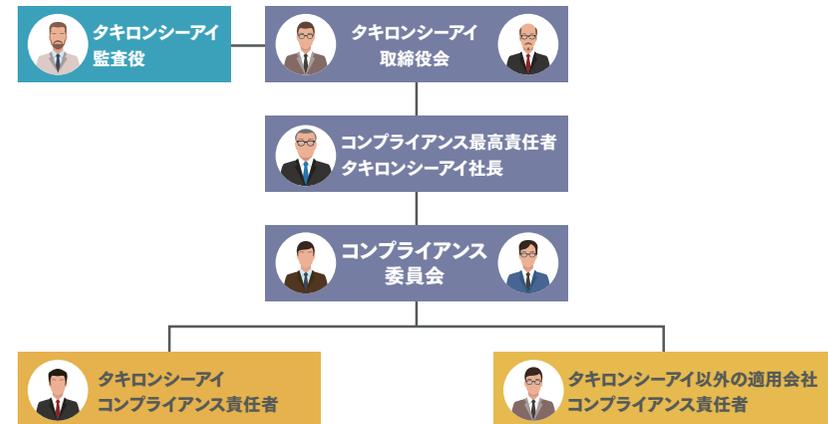
また、コンプライアンス遵守については右記の3点を基本方針として「タキロンシーアイグループ コンプライアンス・プログ

ラム」を策定の上、コンプライアンス委員会を中心とする管理体制を構築。

グループ会社を含めてコンプライアンス責任者を設置し、コンプライアンス遵守に積極的に取り組んでいます。

1. 「健全な組織文化・風土」をつくる
2. 「不祥事を起こさない仕組みや業務プロセス」をつくる
3. 全従業員にコンプライアンス意識を浸透させ、実践行動を促進する

### ◆コンプライアンス体制



### 内部情報提供制度

コンプライアンス懸念事項が発生した際は、職制を通じ情報と指示命令の手順に基づき対応が進められます。しかし、「職制を通じた通常ルート」で内部情報を報告したにもかかわらず正されない場合、または「職制を通じた通常ルート」による報告が困難な場合を想定し、内部情報提供ホットライ

ンを設置。内部情報提供者は、社内の通報窓口としてCSR・コンプライアンス部長・監査役および法律事務所など外部窓口も活用し、状況に応じて連絡先を選択できます。

また、内部情報提供者は匿名での通報も認められており、通報者は何ら不利益を被らない仕組みとしています。

## ステークホルダーとともに

タキロンシーアイグループの事業活動は、多くのステークホルダーの皆様とのかかわりによって成り立っています。皆様の期待に応え、相互信頼を確立していくことが何よりも大切と考えています。

### 株主・投資家の皆様とともに

タキロンシーアイでは、決算情報ならびに東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する重要情報について、内容が確定した段階で迅速に東京証券取引所に開示し、ホームページでも公開しています。

また、株主の皆様には半期ごとに決算概要やトピックスを記載した「株主向け報告書」をお送りしています。さらに機関投資家の皆様には経営トップによる年1回の決算説明会の他、個別ミーティングを実施しコミュニケーションを図っています。

### お客様とともに

#### 品質保証の取り組み

タキロンシーアイでは、お客様にご満足いただける品質を提供していくため、製品の企画・開発から、生産、アフターサービスまでの各段階で、お客様ニーズの充足と品質確保に向けた品質保証活動を推進しています。

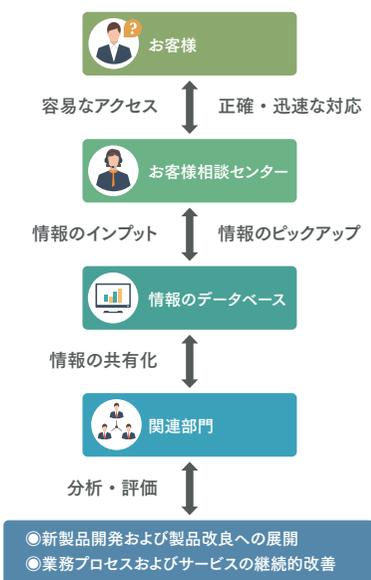
また、ホームページでの「お問い合わせ窓口」や、フリーダイヤルの「お客様相談センター」を設置するなど、お客様の「声」を活かして、製品・サービスを改善する仕組みを構築しています。

#### 製品含有化学物質への対応

タキロンシーアイの製品の大半は成形品であるため、欧州の化学品規制REACHの登録は行っていません。しかし、サプライチェーン中間に位置する立場から、2015年12月17日までに公表された計168物質はもとより、今後追加される高懸念物質（SVHC）についても、ユーザーの皆様へ情報伝達を行うなど適切に対応していきます。

同様に、食品衛生法など各種法令および各種化学物質の業界の規制などにも対応を進めています。

#### お客様の「声」を活かす仕組み



## お取引先様とともに

### グリーン調達・購入の取り組み

タキロンシーアイグループでは経営統合を機に「グリーン調達ガイドライン」を制定しました。

商品やサービスを購入する際に、価格や品質だけでなく、

環境負荷低減に資する資材を優先的に選定する仕組みとしており、調達先についても環境保護に意欲的な会社を優先的に選定しています。

◆旧タキロン グリーン購入比率



旧タキロンでは事務用品を対象とし環境負荷のより少ないものを選定・発注するグリーン購入を推進し、2013年度からは対象をグループ会社に拡大。2016年度におけるグリーン購入比率は 昨年度から7%上昇し46%となりました。

◆旧シーアイ化成 グリーン購入比率



旧シーアイ化成では「グリーン購入ガイドライン」を制定。ガイドラインに掲載している14品目のうち2016年度は8品目が対象となり、当該対象品目に関する達成率は92%でした。またコピー用紙については購入金額ベースで、達成率は99.8%でした。

## 従業員とともに

### 人材育成

新人研修、新任管理職研修等の階層別研修、さまざまな職種別研修、海外への語学研修制度等、社員の能力向上に向けたさまざまな研修制度を設けています。

タキロンシーアイでは、今後もグループ全体で教育研修体

系を再設計し、社員の能力向上を目的とする研修自己啓発プログラムとしてビジネススキル研修や通信講座等の各種プログラムを進めていきます。

### ユニークな研修制度

#### 1 駅伝リレー研修

『経営は駅伝である』『人は仕事で磨かれる』これらの合言葉から生まれた研修です。当社で活躍する中堅社員が講師として、実体験に裏付けられた「想い」「ノウハウ」「マインド」を次代に語り継ぎ、事業部を超えたネットワークを構築することで、広い視野を持った人材の育成を進めています。



#### 2 新入社員指導担当者研修

当社では、入社後に「新入社員研修」、入社半年後には「新入社員フォローアップ研修」を実施し、入社後半年時点での成長と今後のキャリアの確認を行います。今年度から、「新入社員指導担当者研修」制度を導入しました。新入社員配属先で指導担当者（メンター）を設定し、担当者に指導育成のノウハウを伝授。担当者は新入社員育成計画の進捗確認及び社会人としての成長についてフォローをすることで、新入社員の早期戦力化・現場での人材育成力強化を図っています。

### 健康管理

当社では、従業員が健康に働くことができる職場づくりを目指しています。社員全体には定期的に健康診断を実施しており、検診結果については相談窓口として「健康相談室」を事業所ごとに開催し、産業医・外部カウンセラー（一部事業所）

との面談の機会を設置しています。

また2016年夏にはストレスチェックを実施するなど、社員の心身の健康を守り、働きやすい職場づくりを推進しています。

### ワークライフバランス

近年、さまざまな企業で過剰な労働時間による過労死の問題がクローズアップされています。

当社では、就業時間外労働時間の削減に着手。適切な労働時間の管理と効率的業務推進の仕組みをつくとともに、

残業をしない「ノー残業デイ」を設定しています。また、年休取得率の向上に向けて、月2回の年休取得日を設定し、社員の年休取得率の向上に取り組んでいます。

### 女性活躍の推進

当社では、女性も総合職として活躍できるフィールドがあります。女性新卒者は本社管理部門、工場技術部門、研究開発部門などに配属され、管理職登用も含めて積極的に女性活躍に取り組んでいます。

また女性活躍推進の一環として、2017年2月にはこれからの女性の働き方を見つめ直す対話の場として「女性活躍推

進キックオフミーティング」を開催。この場では研修という形式にとらわれず、グループ討論を通して各人が抱える苦労や悩みなど、さまざまな思いを共有する良い機会となりました。

今後も「明日の職場を考える会」という取り組みとして、この活動を継続していきます。



「女性活躍推進キックオフミーティング」の様子。(右)東京工場、(左)損保川事業所

#### ◆過去3年間の男女別新卒採用者数

	2014	2015	2016
男性	16	19	15
女性	3	7	7

(単位：名)

### 障がい者雇用の促進

2013年度の障がい者の法定雇用率改定を踏まえ、タキロンシーアイでは「障がい者雇用ガイドライン」を制定。本社

部門および各生産拠点での障がい者雇用を進めており、一層の雇用促進・定着率向上に取り組んでいます。

### 育児休業制度

タキロンシーアイでは多様な人材の活用に向けた職場づくりに取り組んでいます。その一環である育児休業制度の2016年度利用者は8名（タキロンシーアイ本体のみ）、育児休業

後は取得者のうち希望者全員が復職しています。（自己都合退職者を除く）

#### 社員の声



人事部

佐藤紗矢佳

#### 育児休業制度を利用して

私は2015年3月に長男を出産し、2016年4月に復職しました。現在は認可保育園で子供を預けることができたことと育児短時間勤務制度により時差出勤を認めていただいたことで、夫婦の勤務時間を調整して、仕事と家庭を両立することができています。

復職後も仕事の内容は大きく変わっていませんが、職場の皆様へ深く感謝しつつ、短時間勤務ですが、やりがいを持って働き続けられる職場で充実した毎日を過ごしており、今後は新しい仕事にもチャレンジしていきたいと思っています。

## 安全衛生の取り組み

タキロンシーアイグループでは、すべての職場において労働災害、交通災害を撲滅すること、また就労者の心身を健全に保つことで安全と健康が確保された就業環境の形成を目指しています。そのためにグループ全体の安全衛生に対する方針を定め、その方針に基づいて安全衛生活動を進めることで、災害予防や再発防止につなげると同時に相互に情報を共有、活用することでグループ全体の安全衛生リスクを継続して低減できる体制を構築します。

### 安全衛生体制

安全衛生体制図



### 安全活動基本方針

『妥協なき安全の追求と健全な職場づくり』をスローガンに安全衛生に対する意識を高め、妥協することなく災害を撲滅し、働き方を見直すことで、健全な職場形成を目指しています。

#### 〈目標〉365日無災害の継続

- 〈内容〉
1. 安全意識の向上、共有
  2. 危険感受性の向上
  3. 災害要因の早期発見
  4. 安全衛生法規関連法規遵守活動
  5. 安全教育の実施

### 衛生活動計画

タキロンシーアイでは、社員の衛生面のケアについて、さまざまな活動を実施しています。

2017年は、これらの活動をグループ各社に展開するとともに、さらなる強化に取り組んでいきます。

#### 【2017年度衛生活動計画】

1. 産業界ならびに外部専門家によるメンタルヘルス講習会の実施
2. 国内全グループ会社におけるストレスチェックの実施
3. ストレスチェックの結果を活用した職場改善の実施
4. 「早く帰る日」の設定
5. 36協定遵守の啓蒙と、長時間労働撲滅の風土づくり
6. 産業医との連携による、長時間労働者へのメンタルヘルスケアサポートの充実

### 生産拠点における活動

タキロンシーアイではグループ会社を含めて、各生産拠点で安全衛生管理者を中心に安全活動を実施していますが、各拠点担当者からの視点では見つけられない潜在リスクが懸念されます。

そこで、当社グループでは他の生産拠点も含めて安全チェックによる予防・再発防止対策を実施。外部視点を活かした相互チェックにより安全活動水準の向上を目指しています。

### 労働災害ゼロへの取り組み

タキロンシーアイグループでは労働災害ゼロを目指し、各現場で安全教育やリスクアセスメント活動を実施しています。しかし、労働災害発生リスクはさまざまな現場に潜んでおり、事故発生後に初めてリスクが顕在化するケースも少なくありません。近年、製造現場では安全対策・合理化を目的とした自動化が進み、現場作業者にとっては、「何が危険なのか?」、「どのようなことをすると危険なのか?」が見えにくくなってきています。特に、若年層労働者については、知識・体験の不足から危険予知能力の低下が懸念される状況が認知されます。

そこで2017年度から安全体感教育装置を網干工場に導入。危険を観念としてではなく経験として体感し、職場における身近な危険を直感的に理解する能力を養うことで、個人の能力である危険感受性の向上、安全意識の向上により潜在的リスクである不安全な状態と不安な行動を事前に排除しようと考えています。

今後、この取り組みはタキロンシーアイ本体だけでなくグループ会社も対象とする予定としており、グループ全体で労働災害ゼロを目指す方針です。

#### 【設置される安全体感装置】

Vベルト巻き込まれ安全体感装置



エアースリンダークマレ安全体感装置



滑り/転倒安全体感装置



〈その他〉

- 玉掛け挟まれ安全体感装置
- 漏電遮断器有効性安全体感装置
- 指差し呼称安全体感装置
- 手動式ローラー挟まれ安全体感装置
- 粉じん爆発安全体感装置

### 体験者の声



安富工場 工務チーム  
石井章壽

#### 安全体感実習を受講して

新入社員研修での安全体感装置を使った実習では、さまざまな設備に潜むリスクが顕在化した時の怖さを肌で体感し、災害未然防止のためには機械の仕組みを理解すること、危険箇所の潜在を見極める感受性が重要であることを学びました。そこで経験した大きな爆発音や衝撃は、座学では決して学ぶことができない貴重な体験です。

中でも私が最も印象に残った装置は、エアースリンダークマレ安全体感装置で、小型シリンダの凄まじい威力に驚き、自動運転中の一瞬の判断誤りや残圧による事故のリスクも学びました。

私は工務チームに配属されましたが、この経験を活かし、常に危険に対するアンテナを張り巡らし、災害のない安全な工場づくりに取り組みたいと考えます。

# 地域・社会とともに

## 事業所・生産拠点の周辺地域との共生

タキロンシーアイグループでは、各事業所および生産拠点のある地域において、各地域住民の方々の良き隣人となることを目指しています。

その方針の下、2016年度も周辺の環境保全・美化活動、近隣で開催される各種行事などへの積極参加、近隣小学校児童の工場見学や職業訓練学生の受入のみならず、災害被災地への寄付活動・備品提供などを実施しました。

今後も引き続き、各地域への貢献と交流及び被災された地域への支援活動に取り組んでまいります。

### ◆主な活動実績(2016年度)

(単位:件)

実施内容	件数	実施内容	件数
周辺地域美化活動	21	献血	2
地域イベント・活動への参加	10	被災地への募金活動	3
地域・社会への寄付	9	被災地への物資提供	3
地域児童の工場見学会	3	資源回収	1
交通安全活動への参加	3	障がい者支援	1
インターンシップ	3	<b>合計</b>	<b>59</b>

## 活動状況



## スポーツの振興・支援

タキロンシーアイは2015年度より公益財団法人日本水泳連盟(JASF)との間で競泳日本代表オフィシャルスポンサー契約を結び、競泳日本代表(トビウオジャパン)を応援しています。

また「安全・安心」のプールサイド用防滑性床材を提供しているタキロンマテックス(株)は、日本水泳連盟主催の競泳大会スポンサー協賛ならびに、一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟のオフィシャルスポンサーとして水泳振興活動を幅広く応援しています。



プールサイド用防滑性床材

## 研究機関・国連機関への支援

タキロンシーアイは東京大学大気海洋研究所(気候システム研究系)の地球温暖化を始めとする地球的規模の気候変動メカニズム研究を継続的に支援しています。

また、2017年5月には途上国の子供達の飢餓をなくすため、国連WFPが横浜みなとみらいで開催するチャリティイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド2017横浜」に協賛し、約30名の有志社員・家族が参加しました。

今回の参加費の一部は国連WFPの学校給食プログラムに役立てられています。



感謝状



WFPウォーク・ザ・ワールド2017横浜

## タキロンシーアイ★トピックス

### 自然分解性ネットを用いたサンゴ礁復活

タキロンシーアイグループ会社の大日本プラスチック(株)とタキロンプロテック(株)は2006年から沖縄県海域で行われているサンゴ群集の再生活動に参加しています。

設置が容易で特別なメンテナンスが不要な網状の生分解性プラスチック基盤「コラルネット」を提案(工法:鹿島建設株式会社)し、従来のサンゴ礁植え付け技術に替わり、サンゴを自然着生させて成育させる実験を進めております。最近ではサンゴ断片をネットに固定する移植法の検証や陸上におけるサンゴ礁苗の生産および海域への植苗植生の検証・モニタリングに取り組んでいます。



ネットへの移植試験

植苗生産の基盤に適用

タキロンシーアイは生物多様性民間参加パートナーシップに参加しています。



# 地球環境とともに

タキロンシーアイグループでは、今回の経営統合を機に地球環境保護を目的として新たに環境方針を策定しました。生産プロセスの改善、環境配慮型製品・サービスの開発および提供など、事業活動全体にわたって環境負荷低減に努め、環境保全に向けた取り組みを実施するべくマネジメント体制を推進してまいります。

## 環境方針

### 環境理念

『私たちは常に地球環境保護をこころがけ、人と地球と未来にやさしいものづくりをめざします。』

### 環境基本方針

1. 環境に関する法令を遵守し、社会との調和につとめます。
2. 環境保全に取り組む体制やルールを構築し、継続的なマネジメントサイクルとして環境保全を推進します。
3. 企業活動のすべてにおいて、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、有害物質の排出削減などの環境負荷低減につとめます。
4. 環境と安全に配慮した技術の開発と製品・サービスの提供につとめます。
5. 社員の環境保全意識の向上を図るとともに、積極的な環境情報の開示を通じて社会とのコミュニケーションを推進します。

## 環境マネジメント体制

タキロンシーアイでは経営理念に地球環境保護を掲げ、環境規制の遵守、環境負荷の低減、環境配慮型製品の供給、省資源・省エネ・廃棄物の削減に取り組むために、環境管理規程・環境診断規則を策定しました。

また、グループ全体としての環境マネジメントを推進するために、経営企画本部長（＝環境担当役員）をトップとする環境マネジメント体制を構築し、各拠点の環境保全活動の進捗状況や課題を定期的にレビューする仕組みとしています。

### ◆環境マネジメント会議体



## 環境保全活動内容と実績

旧タキロン・旧シーアイ化成では各社の環境マネジメントシステムに基づき、環境保全活動を実施。2016年度の活動内容・実績および自己評価結果は以下のとおりです。（自己評価(達成度) 90%以上… 70%以上90%未満… 70%未満…）

### ◆旧タキロン

目標	活動状況(2016年度)	自己評価(達成度)
現行の環境マネジメントシステムの推進と強化・充実	ゼロエミッション <sup>※1</sup> (産業廃棄物の削減)	工場からの産業廃棄物“ゼロ”活動 ●●
	省資源・省エネ	・省資源(省材料・歩留り向上)活動 ・省エネ(コージェネ、省エネ設備・機器導入、効率稼働)活動 ●●
	化学物質の管理と低減	・化審法、化管法をはじめとする法規制に基づく化学物質の管理・対象化学物質の使用低減活動 ●●
全社グリーン購入の推進	グリーン調達・グリーン購入	・全社的グリーン購入の推進 ・グリーン購入調達方針の推進 ●●
環境ビジネスによる営業力の強化	リサイクルシステムの構築・運用	・ポストユース品の引き取りからマテリアルリサイクルを主としたリサイクルシステムの研究 ・リサイクル技術の研究と商品の開発 ●
	環境対応型商品の開発(技術開発)	・環境低負荷商品の開発 ・ビジネス、事業への拡大 ●●
環境活動の外部公表	環境報告	・上記環境活動状況のレビュー ・CSR報告書、ホームページによる外部公表 ●●●
環境会計による活動の評価	環境会計	・活動の経営評価指標として環境省のガイドラインに沿った環境会計の集計 ・内部分析から環境経営評価 ●●

※1 旧タキロン ゼロエミッション活動：排出物総量に対する埋立・単純焼却処分率をゼロに近づける活動

### ◆旧シーアイ化成

目標	活動状況(2016年度)	自己評価(達成度)
生産性向上・省エネルギー活動の推進	電力使用量の削減 (電力原単位を前年度比△2%以上)	電力原単位：前年度比+6.2% ●
	CO <sub>2</sub> 総排出量の削減 (前年度比△1%以上)	CO <sub>2</sub> 総排出量：35,622トン(前年度比△6%) ●●●
産業廃棄物発生量の抑制と分別による再資源化の推進	廃棄物発生量の抑制 (前年度比△5%以上)	廃棄物発生量：1,005トン(前年度比+20%) ●
	ゼロエミッション <sup>※1</sup> の達成 (排出物の埋立率※2 0.3%以下)	埋立率※2：0.16% ●●●
化学物質の適正管理の徹底と維持向上	PRTR対象物質の適正管理と排出・移動量の削減 (2001年度比で30%以上削減)	PRTR対象物質の排出・移動量を2001年度比△70% ●●●●
	VOC排出量抑制の推進	規制該当設備(6設備)と排出口濃度の測定(年2回) (測定結果は基準値以下) ●●●●
2004年版対応システムの推進	環境マネジメントシステムの運用と継続的改善	ISO14001認証制度継続達成 ●●●●

※1 旧シーアイ化成 ゼロエミッション活動：埋立率を1%以下にする活動

※2 埋立率：埋立量÷(産業廃棄物排出量+有価物排出量)×100

# 環境指標①

タキロンシーアイグループでは環境負荷低減・環境保全に向けた取り組みの一環として、各生産拠点（一部グループ会社も含む）における各環境指標についてデータを集計の上、分析。事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組み、その実績を評価することで、環境保全活動を推進しています。

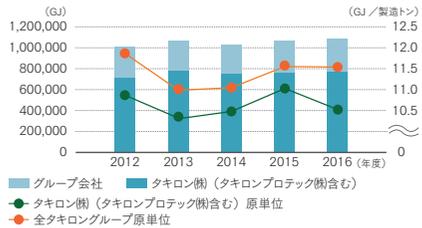
## 省エネ・省資源の取り組み

旧タキロンにおける2016年度のグループ全体のエネルギー使用量は微増となりましたが、生産設備の効率向上などに伴い原単位は昨年度から低減しました。またCO<sub>2</sub>排出量については、半導体・液晶関連需要の拡大に伴う増産およびグループ会社における生産設備の稼働開始に伴い、グループ全体としては前年度から増加しました。

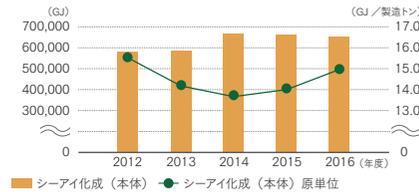
旧シーアイ化成における2016年度のエネルギー使用量およびCO<sub>2</sub>排出量は前年度から減少しましたが、これは主に生産量が減少したことによるものです。生産効率アップ・歩留り向上などの省エネ活動を継続して実施しましたが、生産量の減少および一部事業の整理などによる生産効率の悪化の影響が大きく、原単位については前年度比4.3%の増加となりました。

## エネルギー使用量とエネルギー原単位の推移

### ◆旧タキロン

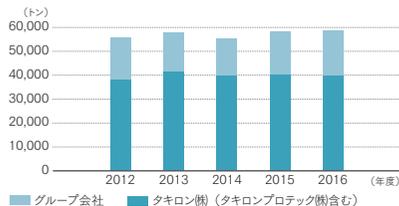


### ◆旧シーアイ化成(本体のみ)

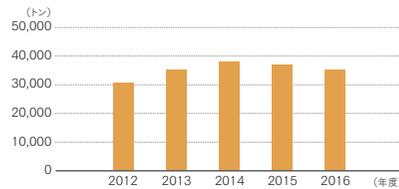


## CO<sub>2</sub> (二酸化炭素) 排出量

### ◆旧タキロン



### ◆旧シーアイ化成(本体のみ)



※2012年度より営業車などのCO<sub>2</sub>排出量も集計  
※過去の数値に誤りがありましたので訂正しております。

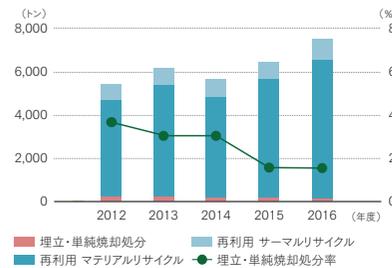
## ゼロエミッションの取り組み

旧タキロンでは、「排出物総量に対する埋立・単純焼却処分率をゼロに近づけていくこと」をゼロエミッションと定義。2016年度については、グループ会社でFRP関連の生産設備が新たに稼働。再利用されるマテリアルサイクル量が増加する結果となり、排出物処理量も前年度から増加しました。

旧シーアイ化成では、「事業活動で排出した廃棄物の埋立処理量を総排出量の1%以下とする」ことをゼロエミッションと定義。2016年度については、副資材の処分とユーティリティの整備などにより、前年度から20%増加する結果となりました。

## 排出物の処理およびゼロエミッションの推移

### ◆旧タキロン



### 〈旧タキロングループにおけるゼロエミッションの定義〉

廃棄物：生産活動において投入した原材料に対して製品以外に発生した全てのもので、直接工程に材料として還元された分（工程内リターン）を除いたもの  
有価物：排出物の中で有価物として売却したり、原材料（ダンボールなど）を納入する業者に再利用を目的に引き渡したものの産業廃棄物：排出物の中で有価物として再利用することが困難でマニフェストを発行し廃棄物処理したもの  
埋立て・単純焼却処分率（%）：（埋立て＋単純焼却）処分量÷総廃棄物×100

### ◆旧シーアイ化成



### 〈旧シーアイ化成グループにおけるゼロエミッションの定義〉

廃棄物：一般廃棄物および産業廃棄物  
有価物：排出物の中で有価物として売却したもの  
埋立量：埋立処理された量  
埋立率（%）：埋立量÷（廃棄物排出量＋有価物排出量）×100  
\*2011年度からグループ会社含めて算出

## 環境指標②

### 化学物質の管理と低減の取り組み

タキロンシーアイが取り扱う化学物質のうち、環境負荷の大きいPRTR法対象化学物質については今後も引き続きグループ全体で代替物質への転換、対象物質の使用量削減に取り組んでいきます。

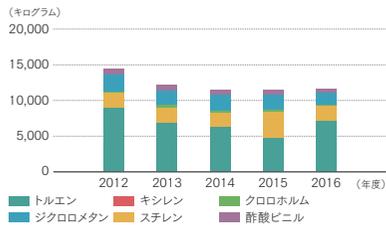
旧タキロングループでは2011年度から国内グループ会社も対象としてデータを集計しています。PRTR法対象物質の排出量は総じて減少傾向にあります。2016年度はほぼ前年度並みの排出量となりました。そのうち接着剤に含まれるトルエンは排出量が増えましたが、FRP原料に含まれるスチレンについては排気処理設備の導入により排出量を削減しました。

一方、移動量のうちフタル酸ビスは、当該物質を含む製品の増産に伴い増加。また、安定剤に含まれる鉛およびその化合物、有機スズ化合物も、半導体・液晶関連需要の拡大により増加し、移動総量は前年度から増える結果となりました。

旧シーアイ化成グループでは2015年度から国内グループ会社を対象としてデータを集計しています。トルエンの排出・移動量については、グループ会社での使用量の増加に伴い、排出・移動量とも前年度から増加しました。また、フタル酸ビスの移動量については、排気経路に付着したものを回収し廃油として処分したために増加しました。

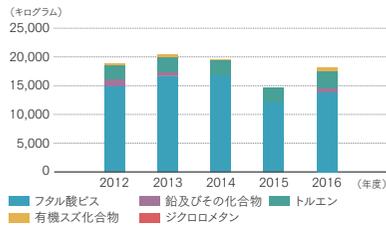
### PRTR法対象化学物質の排出量の推移

#### ◆旧タキロン

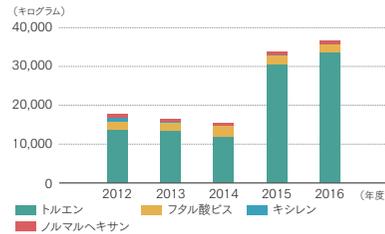


### PRTR法対象化学物質の移動量の推移

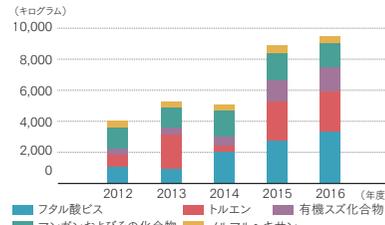
#### ◆旧タキロン



#### ◆旧シーアイ化成



#### ◆旧シーアイ化成



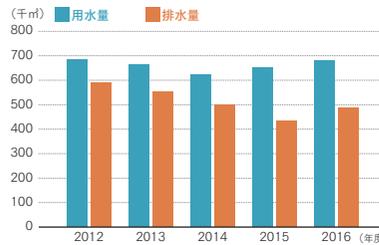
※過去の数値に誤りがありましたので訂正しております。

### 水資源の有効利用の取り組み

タキロンシーアイグループでは、限りある水資源の有効利用を図るためにグループ全生産拠点の用水量・排水量を適切に把握しています。

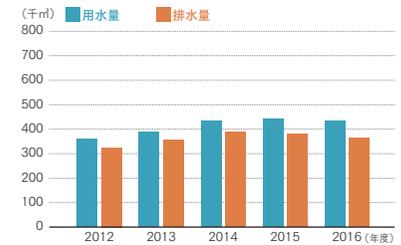
生産時の冷却水の循環利用、節水設備の導入などを進めることで、用水量・排水量の削減に努めます。

#### ◆旧タキロン



※過去の数値に誤りがありましたので訂正しております。

#### ◆旧シーアイ化成(本体のみ)



### 貨物輸送量の推移

旧タキロンは貨物輸送が年間3,000万トン・キロ以上の特定荷主です(旧シーアイ化成は対象外)。これまで合理化計画書と定期報告書を所管省庁に提出しており、その達成に向けて、グループ会社も含めて物流拠点の見直しや積載効率向上に取り組んでいます。

2016年度は、商品・配送エリアによって路線便配送が難しくなるケースが増加。結果、積載率の低い定期便・貨切便が増えたため、2016年度原単位は前年同様の高い水準とな

りました。

2017年度はタキロンシーアイとして新たに特定荷主の対象となりますが、CO<sub>2</sub>削減・原単位低減を目的として幹線輸送(工場⇄物流拠点)へのトレーラーの導入を進めるとともにJRコンテナの活用を検討。また、今回の経営統合にあわせて物流拠点の統廃合および共同輸配送とともに基幹システムの統合を推進し、さらなる物流の効率化・省エネ化を図る方針です。



※タキロン単体の集計

#### ◆エコシップ・モーダルシフトの効果

年度	CO <sub>2</sub> 削減量	CO <sub>2</sub> 削減率
2012	146t-CO <sub>2</sub> /年	52.7%
2013	139t-CO <sub>2</sub> /年	42.4%
2014	151t-CO <sub>2</sub> /年	45.3%
2015	150t-CO <sub>2</sub> /年	47.0%
2016	144t-CO <sub>2</sub> /年	43.4%



※タキロンはエコシップ・モーダルシフト事業実行委員会よりモーダルシフトの取り組みが認められ、平成24年度「エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者 海事局長表彰」を受賞しました。

# 環境会計

## 環境保全コスト

旧タキロンにおける環境保全に関わる費用額は増加し、投資額については減少しました。うち費用額については、公害防止・地球環境・資源循環コストのいずれも増加し、事業エリア内コストが上昇。投資額については空調設備の更新・断熱/遮熱塗装など実施しましたが、総額は減少しました。

旧シーアイ化成における環境保全に関わる費用額については増加、投資額については減少しました。そのうち費用額については上・下流コストが増加となりましたが、投資額については地球環境関連、上・下流関連投資が減少となりました。

### ◆旧タキロン

(単位: 百万円)

分類	2015年度		2016年度		
	費用額	投資額	費用額	投資額	
(1)事業エリア内コスト	196	111	211	101	
内訳	(1)-1 公害防止コスト	18	42	22	10
	(1)-2 地球環境コスト	59	57	63	88
	(1)-3 資源循環コスト	119	12	126	2
(2)上・下流コスト	2	1	2	0	
(3)管理活動コスト	68	7	65	0	
(4)研究開発コスト	1	2	0	0	
(5)社会活動コスト	14	3	14	2	
(6)環境損傷対応コスト	0	0	0	0	
合計	280	123	291	103	

### ◆旧シーアイ化成(本体のみ)

(単位: 百万円)

分類	2015年度		2016年度		
	費用額	投資額	費用額	投資額	
(1)事業エリア内コスト	341	174	338	117	
内訳	(1)-1 公害防止コスト	30	36	31	33
	(1)-2 地球環境コスト	117	96	112	50
	(1)-3 資源循環コスト	194	42	195	34
(2)上・下流コスト	117	79	137	0	
(3)管理活動コスト	6	0	8	20	
(4)研究開発コスト	0	0	0	0	
(5)社会活動コスト	6	0	6	2	
(6)環境損傷対応コスト	0	0	0	0	
合計	470	253	489	139	

## 環境保全効果(事業エリア内効果)

旧タキロンにおける環境保全効果(事業エリア内効果)については半導体・液晶関連需要の拡大に伴う増産により、複数の効果項目の数値が増加しました。一方、排出物総量については処理能力の増加により前年度から削減できました。

旧シーアイ化成においては、一部事業の整理および生産量の減少により、電力使用量、CO<sub>2</sub>排出量、工場排水量は減少しましたが、排出物総量、埋立量については、副資材の処分・ユーティリティの整備などにより増加となりました。

### ◆旧タキロン

効果項目	2015年度	2016年度
1.電力使用量 (千kWh)	100,411	102,298
2.二酸化炭素排出量 (トン)	57,048	58,564
3.工場排水量 (トン)	433	486
4.排出物総量 (トン)	9,753	8,627
5.埋立および単焼焼却処分量(トン)	144	112

### ◆旧シーアイ化成(本体のみ)

効果項目	2015年度	2016年度
1.電力使用量 (千kWh)	55,488	54,182
2.二酸化炭素排出量 (トン)	37,953	35,622
3.工場排水量 (トン)	380	364
4.排出物総量 (トン)	3,660	3,776
5.埋立量 (トン)	3.36	6.17

## 環境保全経済効果(旧タキロンのみ)

節電および省エネ設備の導入などによりエネルギー費用の削減に取り組んでいます。

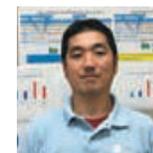
2016年度の費用については前年度とほぼ同等またはそれ以上の削減となりましたが、引き続き、歩留り向上やリサイクル還元率向上に向けた取り組みを推進します。

(単位: 百万円)

効果項目		2015年度	2016年度
収入	有価物の売却による収入	45	68
費用削減	省エネによるエネルギー費用削減	23	34
	省資源・リサイクルによる費用削減	156	152

### タキロンシーアイ★トピックス

## Bonset America Corporationの環境への取り組み



Production Terry 池田

Bonset America Corporationでは環境への取り組みとして電力や廃棄物の削減に取り組んでいます。

電力削減については2017年1月よりオフィスエリアや休憩室の照明のLED化を実施。合計で142灯の交換を完了し、照明の電力使用量を旧来から約67%削減しました。

また、廃棄物(ダンボール、破損した木やパレット、紙など)のリサイクルや再販化を実施し、この10年間で約80%削減しました。今後も環境にやさしい企業を目指し、環境負荷低減活動を継続的に進めていきます。



LED照明にしたオフィスエリアと休憩室

# タキロンシーアイ株式会社

## 本社 梅田オフィス

〒530-0001 大阪市北区梅田 3 丁目 1 番 3 号 ノースゲートビルディング  
TEL (06)6453-3700 FAX (06)6453-3884

## 東京本社 品川オフィス

〒108-6031 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 品川インターシティ A 棟  
TEL (03)6711-3700 FAX (03)6711-3740

## 東京本社 京橋オフィス

〒104-8321 東京都中央区京橋 1 丁目 18 番 1 号 (八重洲宝町ビル)  
TEL (03) 3535-4541 FAX (03) 3535-4542

## ■本報告書についてのお問い合わせ先

### CSR・コンプライアンス部

TEL (03)6711-3933 FAX (03)6711-3935



この報告書は、環境に配慮した「グリーンプリンティング認定工場」で、「FSC®認証紙」、VOC削減効果の高い「水なし印刷」「植物油インキ」を使って作りました。